安全作業手順書【転落防止柵設置工】

作成日・改正日	2025/4/1 （前回改正：2024/4/1）	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具・車両	スコップ、ハンマードリル、ハンマー 小型移動式クレーン、高所作業車、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、保護メガネ、切創作業用手袋、皮手、墜落制止用器具

見積もり基準をした危険性の評価

可能性(A) ＼ 重大性(B)	○　軽微（不休と休業３日以内）	△　重大（休業４日以上）	×　極めて重大（死亡・障害が残る）
○ ほとんど起こらない（５年に１回程度）	○○（極めて小さい）	○△（かなり小さい）	○×（中程度）
△ たまに起こる（１年に１回程度）	△○（かなり小さい）	△△（中程度）	△×（かなり大きい）
× かなり起こる（６ヶ月に１回程度）	×○（中程度）	×△（かなり大きい）	××（極めて重大）

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例

危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし（様子を見る）
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント（～なので～になる）	リスクの見積り (A)	(B)	リスク	安全対策（危険度２以下へ）（私達はどうする）	リスクの再見積り (A)	(B)	リスク
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割（運転手、助手）を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する ケーブル近接協議の内容を確認する 使用機械、工具等の点検を行う しらすんだーの動作確認及び点検を行う 小型移動式クレーンの点検を行う 高所作業車の点検を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 試掘を伴う場合は協議日を確認して 作業前に 朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする 手順書に則り 手順書に則り	手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう / / 協議承認日以前に作業を行ってしまう 作業中に機械が故障し、思わぬケガをする 電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる 小型移動式クレーン作業手順書に則る 高所作業車作業手順書に則る	△ ○ / / △ △ △	× × / / × × ×	4 3 / / 4 4 4	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾃｯｶｰを確認する / / 作業日と協議日を照合し、確認を行う 作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○ ○ / / ○ ○ ○	○ △ / / ○ ○ ○	1 2 / / 1 1 1
	車両確認	セーフティーバイブル	25.車両回送手順書に則る								
	作業車両準備										
	作業車両点検										
	出発準備										
本作業	出発										
	規制内進入										
	車両移動停止										
	逸走防止										
	使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
	試掘及び立会	埋設物の確認を試掘にて行い、立会いを受ける	試掘がある場合は試掘作業手順書に則って	試掘作業手順書に則る							
	現場状態確認	親綱を張り、落下防止対策器具を装着する	作業現場2m以上の箇所では必ず	親綱を張らずに落下防止対策器具を不使用のとき、 擁壁またはC-BOX上から転落する	△	×	4	親綱をはり、落下防止対策器具着用のもと作業を行う	○	△	2
	準備作業	必要箇所の事前草刈りを行う	草刈り手順書に従って	草刈手順書に則る							
	材料搬入	小型クレーン等を用いて敷設材料を現場に搬入させる	①規制の範囲内で ②クレーン使用時は手順書に則り ③高所作業車使用時は手順書に則り	重量物を人力で運搬し、身体を痛める 小型移動式クレーン手順書に則る 高所作業車手順書に則る	△	×	4	重量物を運ぶ際は、２人以上で行う	○	○	1
	設置作業	ハンマードリルによる穿孔作業を行う 埋設ケーブルから離隔50cmを確認する ハンマー等でアンカーを打込む 支柱を設置する パネルを設置する ベースプレート周りのコーキングをする	①保護具を着用して ②ケーブル近接箇所は埋設標をもとに離隔を確認して 手元に十分気をつけて 各ナットが緩んでいないか確認して 各ナットが緩んでいないか確認して	電動工具による被災を起こす / 打込む際に、誤ってハンマーが手元にあたり怪我をする / / /	△ / △ / / /	△ / △ / / /	3 / 3 / / /	保護具を着用し、動作前のスイッチの確認をする / 半分ほど打込んだ後は、手を添えず慎重に打込む / / /	○ / ○ / / /	○ / ○ / / /	1 / 1 / / /
	仕上げ	発生材や道具を片付ける 清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する	車線側、他の作業員等十分周囲に注意して 車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	片付け作業やクレーン操作作業が重複し 作業員同士や、クレーンとの接触を起こす 掃き掃除やブロワー使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する /	△ △ /	△ △ /	3 3 /	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う 職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する /	○ ○ /	○ ○ /	1 1 /
	現場離脱	25車両回送手順書に則る									
	帰着	25車両回送手順書に則る									
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライドバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1